

2020年度事業報告

I. 社会的養護の必要な子どもの自立支援

1. こども・若者未来基金

・こども・若者未来基金による、自立のおうえんを継続しました。

(通常メニュー)

・今年度は、19人28件、総額9,792,000円の給付を決定しました。給付決定額については、以下の表をご確認ください。

メニュー	件	給付決定額(円)
くらしスタート	10	2,490,000
くらしサポート	10	5,652,000
まなびサポート	7	1,400,000
資格サポート	1	250,000
つなぎサポート	0	0

・こども・若者未来基金の寄付募集目標は10,000,000円とし、基金運営委員会に参加の3生協(パルシステム千葉、なのはな生協、生活クラブ生協)とともに寄付募集を呼びかけました。実績は、12,796,810円と目標を大きく超過することができました。クラウドファンディングを含めた当基金への寄付は4,906,500円、3生協からの寄付は7,890,310円でした。生協への寄付者も含め基金への寄付者は約7,700人と、多くの人の参加がありました。

・ちばこどもおうえんだんの会員や寄付者には、12月のボーナス月を中心に寄付を呼びかけました。3生協は11月から、組合員への個別チラシやHP、店舗へのカンパ箱の設置などの方法で、寄付募集を呼びかけました。

・クラウドファンディングは目標を1,000,000円とし、10月28日～1月15日まで実施しました。結果は1,667,000円、171人の方からの寄付が集まり、手数料・消費税を引いた1,446,956円が振り込まれました。

・2019年度よりクラウドファンディングに取り組んでいますが、昨年度は目標額をかなり下回る実績でした。今年度については昨年度の課題を踏まえた対応をして取り組んだところ、超過達成することができました。クラウドファンディングを含め当基金への寄付が増えた要因として、新聞に取り上げられたことが挙げられます。メディアへの積極的なアプローチは、今後も継続します。

・9月をキックオフ月間としましたが、キックオフの位置付けの9月のシンポジウムについては講師が遠方から来されることを配慮し、中止としました。

・10/8(木)は「子どもたちに寄りそって」というタイトルで2019年度に支援した子ども・若者の伴走者2名に登壇いただきました。参加者は45人と、コロナ下ではありましたが予想を上回る参加がありました。登壇者への質問など活発に交わされ、閉会後も交流する様子が伺えました。子どもたちを取り巻く大人の輪が広がることが期待できそうです。

○社会的養護のこどものくらしと自立を考えるシンポジウム

【第1回】(中止)

日時:9月5日(土)14:00~16:15 場所:千葉商工会議所ホール

テーマ:「夢を追い続ければ、奇跡は起こる」

講師:宗次 徳二さん(カレーハウス CoCo 壱番屋創業者)

【第2回】

日時:10月8日(木)10:00~11:30 場所:アミュゼ柏プラザ

テーマ:子どもたちに寄りそって

登壇者:平安 明希さん(自立援助ホーム未来の杜)

小林 大騎さん(市川市生活サポートセンターそら)

・こども・若者未来基金の周知のため、児童養護施設や母子生活支援施設、千葉県里親会等へ募集要項を届けました。また児童相談所所長会議にも参加し、基金の情報を伝えました。

(緊急メニュー)

・2019年度に受けた遺贈を原資とし、これまで通常メニューの中の1つという位置づけだった「途中も緊急もサポート」を、名称を「緊急サポートSOS」とし、緊急支援の柱として位置づけました。募集期間を設定した通常メニューとは別枠で、公的な支援が届きにくい若者へ10万円を上限としできるだけ早いスピードで給付をするもので、今年度は、5人に助成しました。

・「緊急サポートSOS」の趣旨に賛同いただいた企業より30万円の寄付がありました。その企業からは継続的に寄付いただけるとの事ですが、緊急サポートSOSの原資の拡充が今後の課題です。

(その他)

・基金による金銭的支援の他に、年末にこれまでに基金を給付した学生に、初めて食糧支援を実施しました。ちばこどもおうえんだんには県内生協から3つの生協が参加しています。生協組織や組合員は社会課題への意識が高く、食材提供への呼びかけに年末にも関わらず即座に対応いただきました。共通の課題に向かい一緒に事業を進めてきた生協団体との関係性があってこそその成果であり、当団体の強みを最大限に発揮できた事業です。食材は、3生協以外にもフードバンクちばより提供いただきました。また、これまでに関わりのあった児童養護施設を通じ、基金での直接の関わりはないが生活に苦労している人たちへも届けました。

・中間的就労を含めた就労支援、定着支援や居住支援についての機会がなく、関係機関と連携は行っていません。

・今回で4回の給付決定を行いました。面接の際の「点数のばらつき」などが見られ、共通認識を図る必要性を委員が感じています。また、「支援の対象」「当落をつけるのか」「面接の視点」などの課題も見えてきます。次年度の募集の前に課題を整理し、今後の進め方の検討や認識の共通化などを運営委員会の中で議論していく必要があります。

【参考】

2017～2019 年度給付決定状況

(単位:円)

メニュー	2017 年度		2018 年度		2019 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
くらしスタート	4	1,158,440	4	800,000	1 0	2,300,000
くらしサポート	2	2,160,000	7	5,160,000	6	3,840,000
資格サポート	3	900,000	3	900,000	1	150,000
まなびサポート	3	900,000	4	1,040,000	3	700,000
入学金つなぎサポート	0	0	1	500,000	0	0
合計	12	5,118,440	19	8,400,000	2 0	6,990,000
途中も緊急もサポート	0	0	0	0	3	300,000
総計	12	5,118,440	19	8,400,000	2 3	7,290,000

*表内の数字は決定額で、実際の給付額とは異なります。

2017～2020 年度寄付額

(単位:円)

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
寄付総額 (2016 年度分含む)	9,493,000	7,288,560	8,545,596	12,796,810
(内、3 生協分)	7,116,000	6,220,760	6,776,366	7,890,310

2. その他の自立支援

・「パルシステム給付型奨学金モデル事業」に推薦した若者の伴走支援を行い、毎月の面談の報告を、事業事務局を担っている一般社団法人くらしサポートウィズに提出しました。2021 年 3 月より奨学生は措置延長 2 年の予定であったのを 1 年前倒しで一人暮らしを始めています。これから伴走支援の重要性も増していくと考えます。

・「ことばキャンプ」については、ちばこどもおうえんだんとの連携の在り方を検討しましたが、実際に連携した活動を作り上げることはできませんでした。ただ、今後も「ことばキャンプ」主催団体は、社会貢献として千葉県内での児童養護施設でのプログラム実施を模索しており、応援依頼があれば活動支援を行っていくことを都度検討することとします。

II. 貧困家庭・要支援家庭の子どもの支援事業

・千葉県内で子ども関連の活動をしている団体と連携し、「ちばこどもおうえん広場 2020&オレンジリボンキャンペーン」の開催を計画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年行って

いる子どもの発表の場や遊びのコーナーは実施せず、人権懇話会のみ 11/1(日)に開催しました。「子どもたちどうしてる?~コロナ禍の今、学校、施設、家庭のリアル」をテーマに、学校、チャイルドライン(子ども電話相談)、児童養護施設の立場からそれぞれ話を伺いました。また同日から1週間、千葉ポートタワーがオレンジ色にライトアップされました。

・ちば子ども虐待防止研究会(通称 JasPCAN ちば)(2017 年度虐待防止学会ちば大会実行委員を中心とする団体)のメンバーとして、2/23(火・祝)にオンラインシンポジウム「コロナ禍における子どもの居場所~私たちがやってきた事と、これから~」の開催に関わりました。今年度は、さまざまなものにコロナの影響が出ており、最も弱い立場の子どもたちへの影響は小さくはありません。そんな中、より子どもたちの利益になるように工夫している様子が伺えました。

III. 里親家庭支援について

・千葉県里親大会、里親制度説明会、テーマ別里親研修の3つの県の事業に応募しましたが、2者相見積もりの結果、県里親大会のみ受託しました。
・千葉県里親大会の事業として 11/3(火・祝)に「知ってほしいな、里親のこと」を開催し、118 人の参加がありました。第 1 部は、「施設が里親の応援団になるために」というタイトルで千葉みらい響の杜学園施設長渡部靖久さんと職員の鈴木郷さんにお話をいただきました。第 2 部の里親体験談は、3 人の里親さんに登壇いただきました。新型コロナ感染対策を取りながら開催しましたが、予想を上回る参加人数のため、参加者同士の十分な距離の確保ができていない場所もありました。コロナ下にありながら、100 人を超える参加があったことは、里親に対する興味関心が広がってきてることの表れだと思います。
・「千葉市里親委託等推進委員会」に参加し、千葉市における里親推進の状況の把握や、関係機関や他団体との情報共有を行いました。

IV. 啓発・広報事業

1. 啓発事業

・10/8(木)に社会的養護の子どもの暮らしと自立を考えるシンポジウムを開催しました。詳細は「I. 社会的養護が必要な子どもの自立支援」の項をご覧ください。
・千葉県里親大会を開催しました。詳細は「III. 里親家庭支援」の項をご覧ください。
・ちば子ども虐待防止研究会第 3 回オンラインシンポジウム、人権懇話会の開催に協力しました。詳細は「II. 貧困家庭・要支援家庭の子どもの支援事業」の項をご覧ください。

2. 広報事業

・ニュースレターを、6 月(総会後)、12 月(秋のシンポジウム等の終了後)、年度末の 3 回発行しました。基金で助成した子どもたちへのインタビューや寄付をいただいた企業の紹介など、新たなコーナーも設け内容の充実を図りました。
・各種団体リーフレット等をリニューアルし、認定 NPO になり寄付控除が使えることなどを明示しました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、様々なイベントが中止となり、作成したリーフレットが十分に活用できていません。次年度以降、対面の場で多くの人に手渡し、共感が広がることを期待し

ます。

- ・facebook ページへの「いいね！」の数は、期首 472 人に対し、537 人に増えました。また、フォロワーが数人います。10 月に「500 いいね！を目指したいので拡散の協力を」と投稿したことと新聞にクラウドファンディングの記事が掲載されたことをきっかけに、数が増えました。
- ・今年度一番見られた投稿は、こども・若者未来基金実行委員会宮本委員長のクラウドファンディングのメッセージ動画でした。そのほかの投稿は、概ね 150 人程度から見られています。
- ・facebook では一定の更新ができていますが、一方で HP の更新がなかなかできていないことは課題です。
- ・ちばこどもおうえんだんに参加する県内 3 生協(パルシステム千葉・なのはな生協・生活クラブ生協)の機関紙等で、組合員に向け団体の活動を発信しました。その結果、生協組合員の寄付者が増えることにもつながっています。

V. 調査研究活動事業

- ・5 月に、これまで子ども・若者未来基金で助成した子どもたちの伴走者に、コロナの影響について聞き取りをしました。就職した子どもたちは、比較的安定していました。学生は、アルバイトの時間数が減り、飲食店はお店自体が休業や閉店などという状況にあり、非常に苦労している様子が見受けられました。そんな中、施設や里親と連絡を取り合い、伴走者がきちんとフォローしてくれており、ヒアリングの時点ではなんとか暮らせている状況が伺えました。
- ・聞き取りの中から、コロナでアルバイトが減少し学費が払えなくなっている学生に対して緊急サポート SOS による支援を行いました。

VI. その他

1. 事務局受託

- ・生活クラブ風の村が千葉県より事業受託している社会的養護下で育った人の自立後の支援をするちばアフターケアネットワークステーション(CANS)の事務局を継続して担いました。主に、アフターケア勉強会開催への協力などを行っています。
- ・千葉県児童福祉施設協議会の事務局機能の一部を受託し、寄付関係や外部との調整などを主に行いました。

2. その他

・「わくわくプロジェクトCHIBA」

コロナウイルスの影響でプログラムの実施は、できませんでした。11 月に生活クラブ生協の理事への研修としてプログラムの一部をオンラインで行いました。わくわくプロジェクトを知ってもらう良いきっかけとなったと考えています。また、オンライン等を利用したプログラムの在り方も今後の課題となりました。

VII. 組織運営

1. 運営体制

- ・事業を円滑にすすめるために、以下の通り理事会等を開催しました。

理事会

開催日	主な案件
4月15日	(1)第5回通常総会について(2)こども・若者未来基金2019報告会について
7月30日	(1)講師謝金規定について(2)遺贈を原資とする緊急支援について(3)社会的養護の子どものくらしと自立を考えるシンポジウムについて(4)千葉県里親大会について
11月24日	(1)講師謝金規定について(再提案)(2)第6回通常総会・基金報告会について
2月25日	(1)第6回通常総会について(2)こども・若者未来基金助成決定について(3)パルシステム連合会奨学金について

こども・若者未来基金運営委員会

開催日	主な案件
6月8日	(1)緊急サポートについて(2)9月10月開催シンポジウムについて(3)2019助成者との昼食交流会について(4)新型コロナウイルスの影響のヒアリングについて
8月17日	(1)社会的養護の子どものくらしと自立を考えるシンポジウムについて(2)こども・若者未来基金規則の改定について(3)こども・若者未来基金2020について
12月11日	(1)寄付募集の状況について(2)2020年度申請について(3)面接について(4)パルシステム連合会奨学金への推薦について(5)こども・若者未来基金2020報告会について
1月25日	(1)こども・若者未来基金2020について(助成の決定)(2)パルシステム連合会奨学金への推薦について(3)こども・若者未来基金2020報告会について
3月30日	今後加筆

こども・若者未来基金生協実務者会議

4月3日	(1)2019年度寄付状況について(2)報告会について
11月19日	(1)寄付募集について(2)応募状況(3)報告会について(4)動画作成について
1月15日	(1)寄付募集について(2)報告会について(3)動画作成について(4)緊急食糧支援について
3月15日	(1)20年度3生協の寄付状況について(2)給付決定状況(3)報告会2020について

2. 会員拡大について

- ・昨年の寄付者が会員になるなど新規加入者が22人増え、会員数は目標を達成しました。
- ・寄付者の寄付控除については、認定NPO法人になったお知らせと共に、7月発行のニュースレターNo.12でお知らせしました。

		目標		実績			
				2020年度会費納入済み会員		会員総数	
		人数・団体数	口数	人数・団体数	口数	人数・団体数	口数
運営会員	個人	20人	25口	16人	20口	18人	22口
	団体	4団体	53口	5団体	54口	5団体	54口
おうえん会員	個人	120人	140口	125人	149口	173人	197口
	団体	10団体	10口	9団体	11口	9団体	11口

*定款第3章会員第9条(3)に「継続して2年以上会費を滞納したときに、会員の資格を喪失する」とある。実績の会員総数には2019年度会費未納者も含まれる。2020年度決算報告の活動計算書「受取会費」は、「2020年度会費納入済み会員」数による。

(1)特定非営利活動に係る事業

事業名	事 業 内 容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び予定人数
自立支援事業	社会的養護の子どものくらしと自立を考えるシンポジウム@柏	10月8日(木) 10:00~11:30	アミュゼ柏	4人	社会的養護の子どもの自立支援に関心のある不特定多数 45人
貧困家庭・要支援家庭の子どもの支援事業	人権懇話会	11月1日(日)	オンライン	2人	子どもと子どもの支援に興味関心のある不特定 40人
	第3回ちはども虐待防止研究会	2021年2月23日(火・祝) 13:30~16:00	オンライン	1人	子ども虐待防止に興味のある不特定 87人
里親家庭支援事業	千葉県里親大会	11月3日(火・祝) 13:30~16:00	千葉県教育会館	4人	里親制度に興味のある不特定の参加希望者 118人
啓発・広報事業・政策提案	SNSやHPを活用した情報発信	随時	法人事務所内	1人	不特定多数
	ニュースレターの発行	6月、12月、3月	法人事務所内	3人	不特定多数

(2)その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数
その他事業	ちばアフターケアネットワークス テーション事務局受託	通年	事務所内 他	1人
その他事業	千葉県児童福祉施設協議会事 務局受託	通年	事務所内 他	1人